

# かわにし市民会議からの提案

## 第2班 子育て・教育の充実

### ～笑顔で子育てができ、 川西市で育ったことに誇りを持てる教育の実現～

以下の6つの提案は、私たち第2班の会議参加者が、5回にわたって議論してきたことや、各回で記載した「改善提案シート」の内容を中心にまとめたものです。

#### 提案

1. 産前から産後を通して、子育て世帯を地域・行政が協力し支える体制の充実を図る

#### 提案

2. 子育てについての相談や交流が気軽にでき、みんなが笑顔で子育てできる環境をつくる

#### 提案

3. 子育て中の世帯（夫婦とも）に情報が伝わる仕組みをつくる

#### 提案

4. 子どもたちが生まれ育ったまちに愛着を持てる学校教育を行う

#### 提案

5. 学校・家庭・地域が連携協力し、教育を行う風土・体制を整える

#### 提案

6. すべての子どもが笑って過ごせる学校を目指し、学校と地域が協力して取り組む体制をつくる

1. 産前から産後を通して、子育て世帯を地域・行政が協力し支える体制の充実にを図る

【提案内容】

子どもの出産は、夫婦にとって環境が大きく変わるタイミングであり、夫婦ともに肉体的・精神的な負担から、産後うつや児童虐待、夫婦関係の悪化に繋がる恐れがある。「子どもが生まれて幸せなはずなのに…」と感じることがないように、家族・行政・地域それぞれの立場から、産前から産後の継続的なサポートを行う必要がある。

「提案1」の実現に向けて、それぞれが行うこと

個人

夫婦間で産前に子育て情報を共有しておく。  
 プレイルームなど子どもを連れて出られる場所を調べ、積極的に外出する。  
 産前産後などのつらいときは周囲を頼る。  
 自分自身の子育て経験を積極的に他の子育て世帯に伝え、相談相手となる。  
 近所の子育てをサポートする。

地域

地域全体で子育て世帯をサポートする意識を持つ。  
 子育て中の方に声かけをする。  
 公民館で給食会を実施するなど、支援の場を設ける。  
 子どもを集めて預かれるコミュニティをつくる。

行政

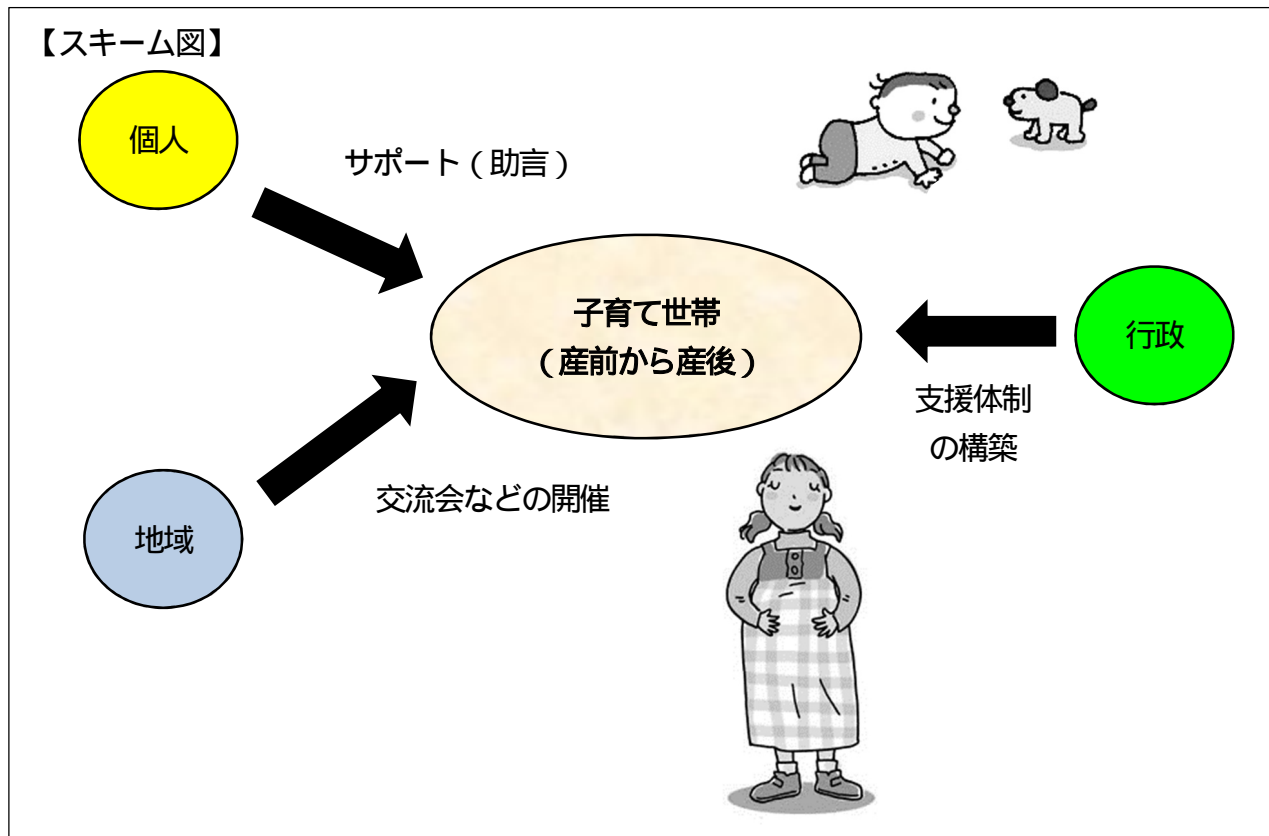
産前・産後の両親学級を設ける。  
 母子手帳へ産後の情報（経験者談や医師・保育士のアドバイスなど）を盛り込む。  
 出産後の世帯に対し、生活で困った点をサポートしてもらえる「ヘルパークーポン（案）」を配布する（シルバー人材センター等の協力を得る）。

民間企業、NPO等

その他の意見

母子手帳を親子手帳に変更。内容も子ども・母・父の三部構成。また、産後に向けて、父親の部には、将来、父親にやってほしいことを母親が記入。母親の部には将来の母親へのお願いを父親が記入できるなどの特色を。アプリ化も検討。

## 1. 産前産後のサポート体制の構築



2. 子育てについての相談や交流が気軽にでき、みんなが笑顔で子育てできる環境をつくる

【提案内容】

慣れない育児と日常の家事・仕事に追われ夫婦ともに多忙となるなど、生活環境の急激な変化などによって、心身ともに疲れを感じ、「子どもを連れて買い物や公園、プレイルームに行く」などの自発的な行動を起こしにくくなる。その結果、外出するきっかけづくりが難しくなり、子育ての相談や悩みを打ち明けられず、ストレスを抱え、社会からの孤立を感じてしまうケースがある。

それを予防するために、子どもを遊ばせながら、気兼ねなく子育てについての相談や交流、情報の共有ができる環境を作る必要がある。

「提案2」の実現に向けて、それぞれが行うこと

個人

夫婦間で話し合いを行う。

情報を収集する。

集まれる場の情報を発信する。

川西市が配信している子育て情報（子育て支援アプリ、子育て情報誌）を活用する。

子育て世帯支援のため、ファミリーサポートセンターの会員登録をする。

プレイルームなどに参加する勇気をもつ。

地域が取り組む親子料理教室などに参加する。

普段から子育て世帯と日常的に関わりをもつ。

プレイルームに相当する施設について貸出を行う。

親子料理教室や子ども食堂などを開催し、親子ともにゆっくりできる場をつくる。

交流会を計画し、講師やプログラムリーダーを市民から募る。

地域で実施する行事や交流会などの情報を配信し、参加を呼び掛ける。

そういう場を提供できるコミュニティづくりを行う。

地域

子育て経験者の情報を配信する仕組みを構築する。

子育て世帯が交流、相談できる公共施設を紹介する。

土日も子育て世帯が活用できるよう公共施設を開放する。

行政

地域が取り組む親子料理教室等の開催場所を提供する。

公民館にプレイマットを置くなど子連れでも使いやすいように工夫する。

プレイルームに参加しやすい工夫をする。

## 行政

親子で参加できる交流会の場を提供し、その場で教育情報の配信を行う。  
両親が楽しめるプログラムを企画する。  
外出しやすい公園づくりを行う。

## 民間企業、 NPO等

### その他の意見

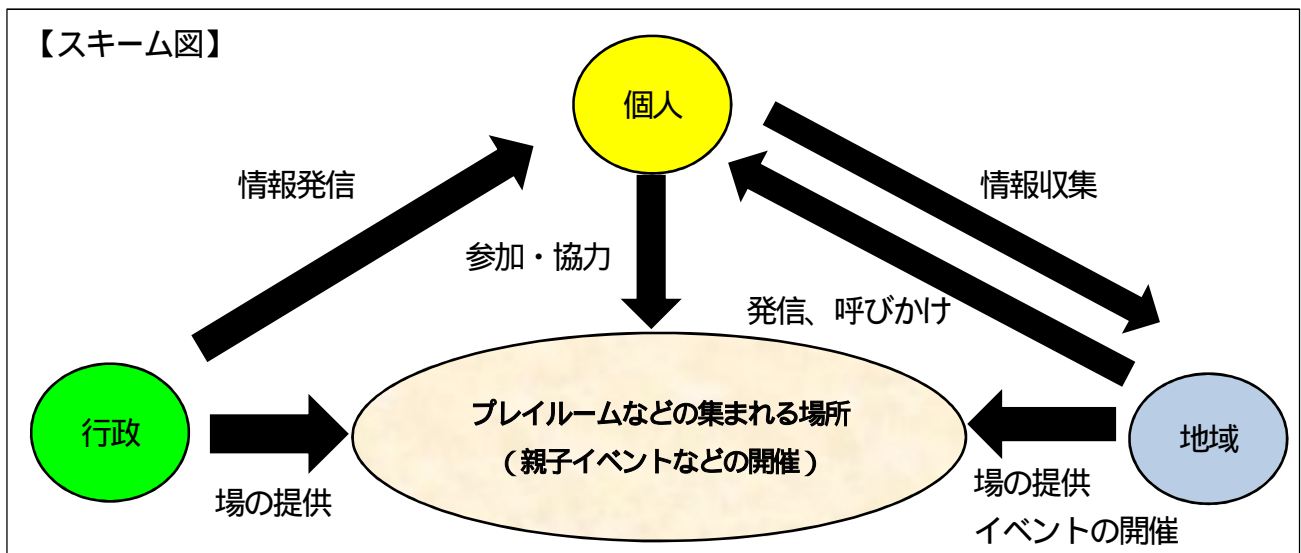
子育て等のイベントの申し込みに手間がかかったり、先着順であったりすると、申し込む意欲が無くなってしまいます。簡単な返答で参加出来たり、強制参加とするイベントを企画してはどうか。

### ～提案内容の具体的なイメージ～

主体	取り組み内容	具体的なイメージ
行政	両親が楽しめるプログラムを企画	・子どもと一緒に参加できるヨガ教室
	プレイルームに参加しやすいように工夫する	・外から中が見えやすいようにする ・父親歓迎と記載する ・孤立している方への声掛け など
	外出しやすい公園づくり	・水道が自由に使えるようにする ・公園によって遊具を変える

### ～具体的な施策提案～

## 1. 両親・子どもが交流できる場所の構築



### 3. 子育て中の世帯（夫婦とも）に情報が伝わる仕組みをつくる

#### 【提案内容】

かわにし市民会議に参加して知った情報が多く、教育や子育ての情報を含めて、情報を必要としている人へタイムリーに伝わっていない。子育てなどで常に時間に追われて忙しい世帯には広報誌など紙での情報提供だけでなく、スマートフォンのアプリなどを使った情報発信を行う。

また、教育や子育てに関する情報を母親だけではなく父親とも共有できるような仕組みをつくる。

#### 「提案3」の実現に向けて、それぞれが行うこと

##### 個人

- 市ホームページを見るなど情報収集を行う。
- 情報公開を要求する。
- 欲しい情報を市へ提案する。
- 母子手帳を母親だけではなく父親にも記入してもらい、夫婦で共有する。

##### 地域

地域で実施しているプレイルームなどで意見をまとめて市に伝える。

##### 行政

- 子育てアプリ「マチカゴ」を使いやすいように改良し、周知する。
- 子育て世帯に対し、欲しい情報についてのアンケートを行う。
- 保育所等で実施している育児支援プログラムを一覧化し、配信する。
- 取組中の情報についても、公開を徹底する。
- 先輩となる保護者等に質問したい項目をアンケートで把握し、回答してほしいターゲットに送付・集計の後、情報提供を行う。
- 母子手帳を活用しやすいように工夫する。

##### 民間企業、 NPO等

#### その他の意見

中学校給食が耐震化等を優先したため遅れていることを知らなかった。実施することをしっかりアピールするべき。

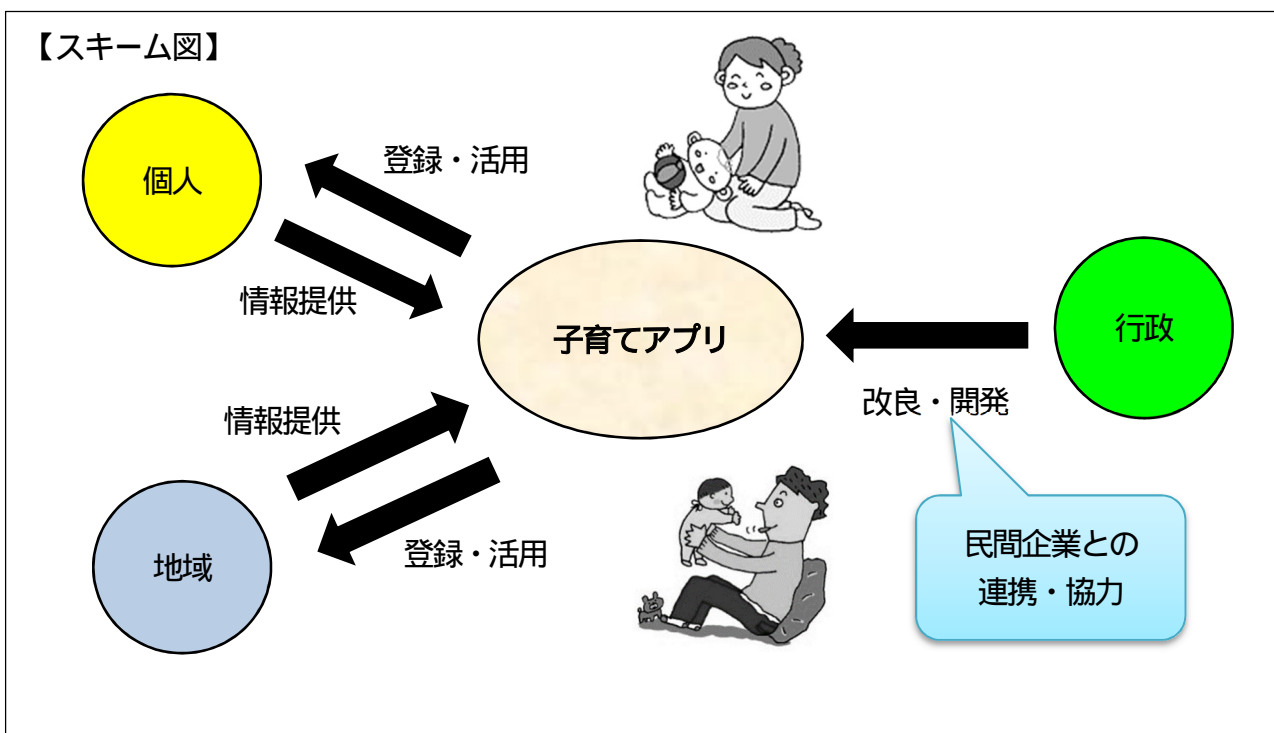
川西市は子育てをはじめイベントを多く実施しているので、そこをもっとアピールしてもいいと思う。

～提案内容の具体的なイメージ～

主体	取り組み内容	具体的なイメージ
行政	子育てアプリの改良	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「すくすくガイドマップ」との連携</li> <li>・母子手帳をアプリ化し、情報を集約する</li> <li>・バリアフリースイレやおむつ交換可能場所等が表示できるようにする</li> <li>・夫婦間で共有できる仕組みを作る</li> </ul>
	先輩保護者に対する質問	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年子どもが小学校に上がる保護者から小学校に子どもがいる親への質問（先生の感想、習い事など）</li> <li>・近隣住民間の質問（七五三のお参り、病院の感想など）</li> </ul>
	母子手帳の改良	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「母子手帳」の通称を「親子手帳」に変更する 例：岡山市</li> <li>・母子手帳をアプリ化し、夫婦で登録するよう促す</li> <li>・アプリ化した母子手帳に、地域団体が情報を入力できる仕組みを作る</li> </ul>

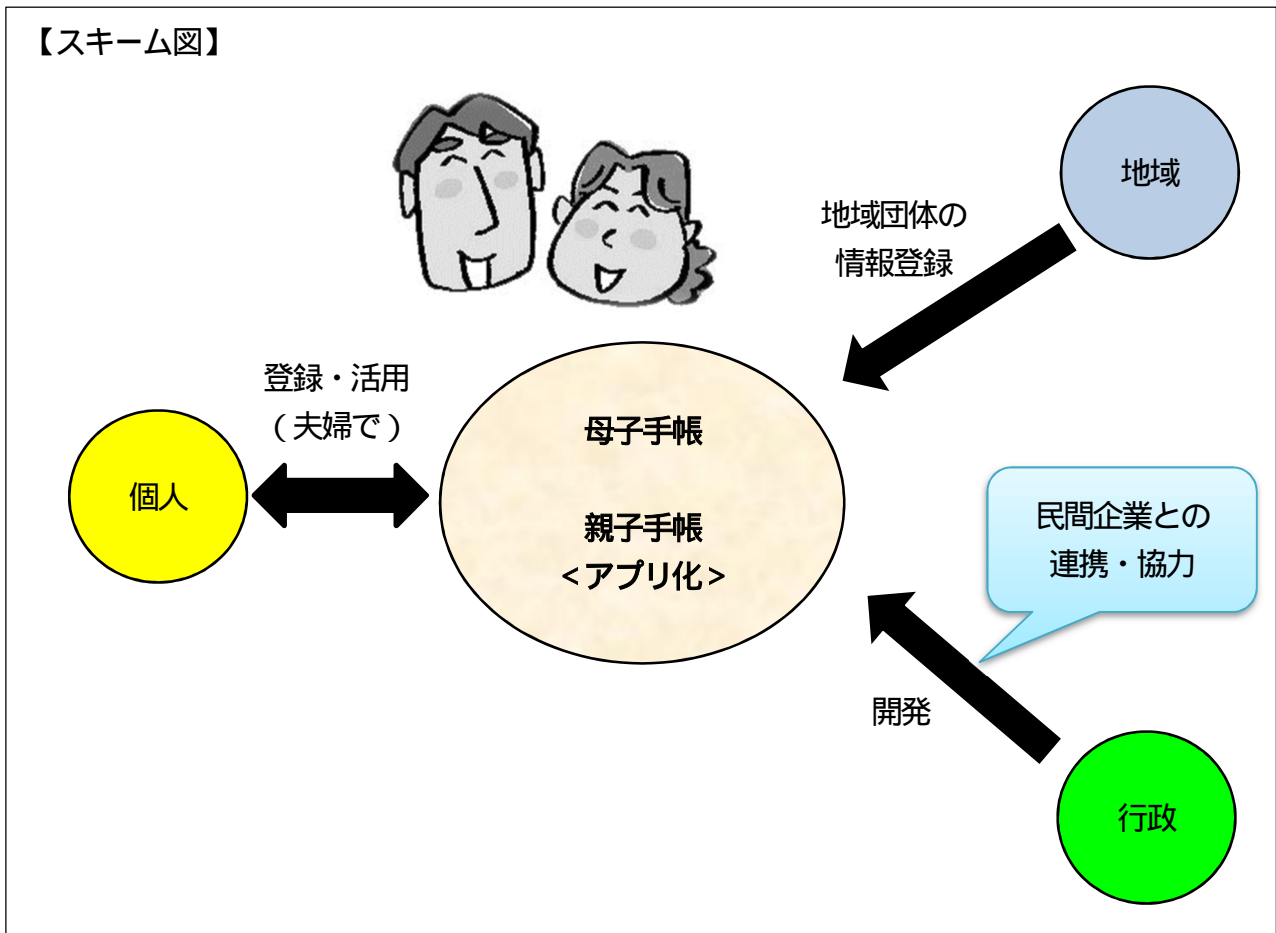
～具体的な施策提案～

1. 子育てアプリの改良



## 2. 親子手帳のアプリ化

【スキーム図】





## 4. 子どもたちが生まれ育ったまちに愛着を持てる学校教育を行う

### 【提案内容】

子どもたち一人ひとりが個性を伸ばし、夢の実現に向けて努力できる環境を整えることが、川西市にとって大切である。

自身が生まれ育ったまちに思い出と愛着を持ち、子どもの頃に体験した学びが「将来の夢」を描くきっかけとなるような“川西市ならではの”教育を行う必要がある。

### 「提案4」の実現に向けて、それぞれが行うこと

#### 個人

川西市に興味を持ち、教育の問題点や特色について考え、地域や行政に提案をする。

市や地域のことを積極的に学び、広める。

部活動や体験学習に参加・協力する。

地域密着型体験学習に参加・協力する。

地元企業等による職業体験に参加・協力する。

#### 地域

「川西市に住む子どもたち」に地域の魅力や伝えたいこと（地域の歴史・特色など）を考えて伝える。

部活動や体験学習に協力する。

地域密着型の体験学習を実施する。

地元企業等による職業体験の場を提供する。

#### 行政

「川西市に住む子どもたち」に市の魅力や伝えたいこと（市の歴史・特色など）を伝えていく。

公立で中高一貫校の設立を検討する。

学習指導要領に加え、川西市ならではの教育を実施し、積極的な広報を行う。

地域密着型の体験学習の実施を支援する。

フレキシブルに対応できる窓口（個人・地域を支える）を設けるとともに、子ども一人でも相談できる窓口を設ける。

#### 民間企業、 NPO等

## その他の意見

適応の難しい子どもの内面を理解し、のびのび学校生活を送れるような環境が必要ではないか。  
英語教育の特区を作ってはどうか。

学校に行く目的を子どもに考えさせる取組みが必要ではないか。

子どもに「将来やりたいことやビジョン」を持たせられていないのではないか。

地域に根差した教育として、里山体験教育やトライやるウィークを既に実施しているのではないか。

そもそも、特色とは何か？本当に必要なのか。

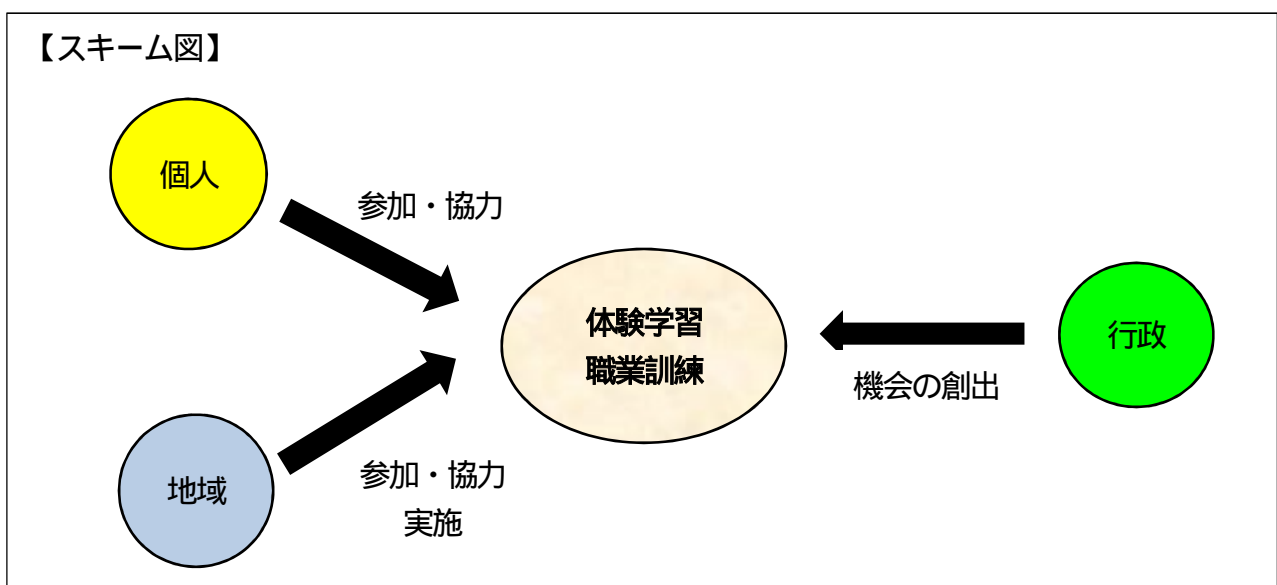
全校・全住民にアンケートをとってはどうか。

## ～提案内容の具体的なイメージ～

主体	取り組み内容	具体的なイメージ
行政	学習指導要領に加え、川西市ならではの教育を実施	・川西市の自然や産業を活かした教育 ・給食で川西市の特産品を使用するなど、川西市ならではの献立を考える ・中高生が幼児と触れ合える場を設ける
	地域密着型の体験学習	・地域で職業体験ができる機会の創出を支援する

## ～具体的な施策提案～

### 1. 地域密着型の体験学習や職業訓練の実施



5. 学校・家庭・地域が連携協力し、教育を行う風土・体制を整える

【提案内容】

共働き世帯の増加や核家族化の進展など、子どもを取り巻く環境が大きく変化している。また教員の負担増加についても大きな社会問題となっている。これらのことから学校・家庭・地域が一体となって子どもを育てる体制を整えることで、さまざまな人との関わり、多種多様な学びに触れることができ、子ども一人ひとりの「生きる力」を伸ばす教育につながる。

また、三者の活動の場として学校を開放し、地域住民の活動拠点を増やすことで、子どものみならず、地域の方たちのつながりや活性化にも効果が期待でき、自分らしい生き方、生きがいを見つけるきっかけとしたい。

「提案5」の実現に向けて、それぞれが行うこと

個人

学校以外の家庭や地域など、それぞれの場所で学んでほしいこと、できることを考え、行動する。

地域活動を自分事と捉え、積極的に参加する。

子どもが学校や地域で行っている勉強会に興味や関心を持ち、参加につながるようなきっかけをつくる。

家庭学習を行う。

地域

学校を活動の場と捉え、学校で地域活動を行う。

地域住民が学校内でのサークル活動を行う。

同じ得意分野や考えを持つ住民をコーディネートし、個人の活動を支援する。

イベントだけでなく日常的に学校や子どもたちとの関わりをつくる。

授業の手伝いをする。

見守りの実施や子どもが参加できるイベントを開催する。

地域で学習ボランティアを募集し、放課後などに勉強会を開く。

学習ボランティアのための学習会を開く。

行政

地域に開かれた学校を構築する。

コミュニティ・スクールを設置し、運営に地域の意見が反映される仕組みを構築する。

地域住民と子どもたちをつなぐ機会をつくり、安全面をサポートする。

地域団体が子どもに対して行うイベントについては、学校を自由に使えるようにする。

## 行政

家庭・地域で行う学習の支援を行う。

放課後に勉強会を行う。

学習ボランティアを募集する。

教員の業務負担を減らすシステムを検討し、教員の教育に使える時間を増やす。

子どもがやりたい事を学べる場所・人のマッチングを行う。

提出書類(発達支援等)を手書きではなくパソコン入力できるようにし、利用者の負担を減らすシステムを導入する。

## 民間企業、 NPO等

### その他の意見

小学校に限らず、保育所・幼稚園～高校まで地域の方が関わることで、先生とうまくいかなかったも、地域との関わりで学校が好きになってくれるのではないかと。

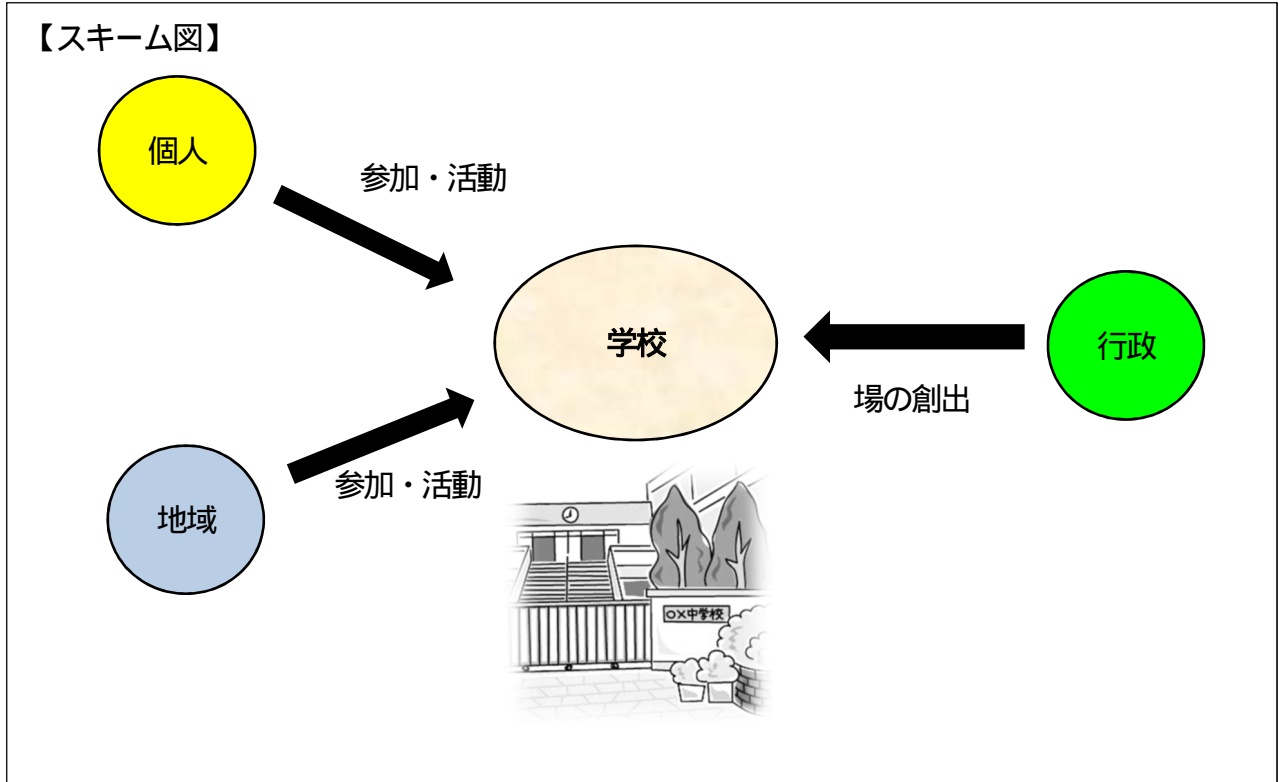
ALT 教育について、授業の最後に担任が日本語で説明するので、必要性が薄いのではないかと。

学校での勉強会の場合、距離が離れている子どもは行きにくいので家庭学習が重要ではないかと。

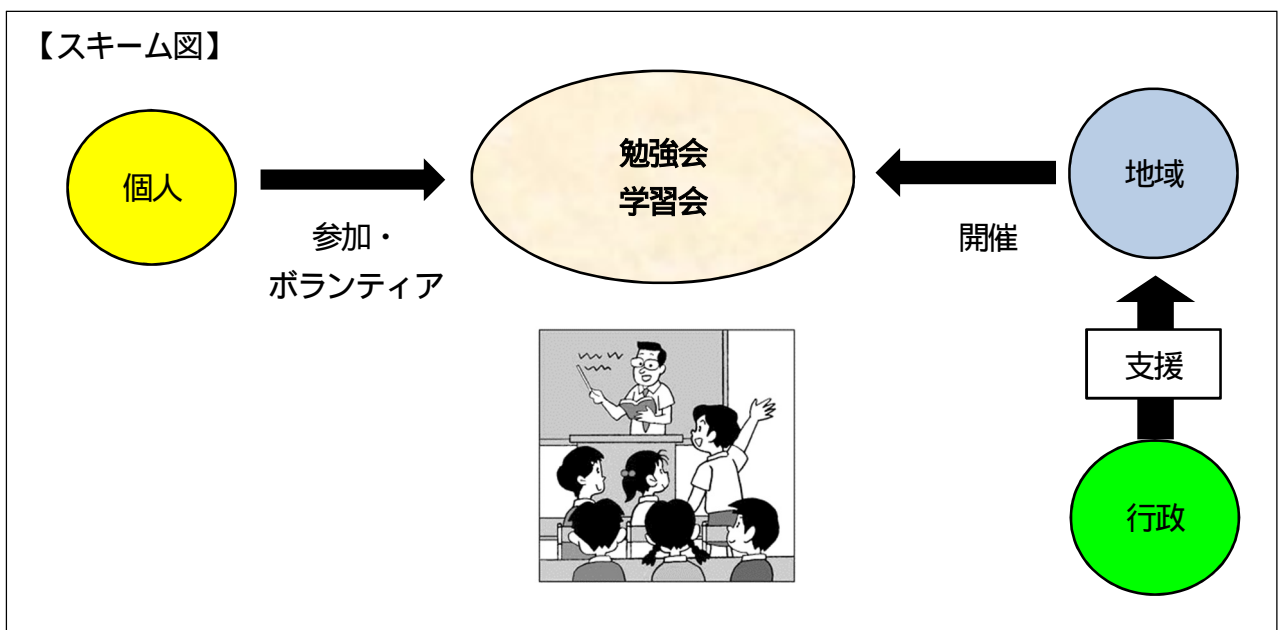
### ～提案内容の具体的なイメージ～

主体	取り組み内容	具体的なイメージ
行政	家庭・地域で行う学習の支援	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 保護者や地域ボランティアに学習支援方法を伝える</li><li>・ 家庭学習に必要な教材の貸出を行う</li><li>・ 地域が行う放課後勉強会の場所を提供する(学校等)</li><li>・ 教師を目指す人を学校・地域で行う勉強会にボランティアとして参加できる仕組みを作る(ホームページでの募集など)</li></ul>

## 1. 学校を活動の場とした地域活動等の実施



## 2. 地域における勉強会・学習会の開催



6. すべての子どもが笑って過ごせる学校を目指し、学校と地域が協力して取り組む体制をつくる

【提案内容】

子どものいじめや不登校にはさまざまな原因がある。すべての子どもが笑って過ごせる学校となるよう一人ひとりが「自分たちのまちの学校」の問題と捉え、自分たちにできることを学校と協力して進める必要がある。

「提案6」の実現に向けて、**それぞれが行うこと**

個人

いじめと感じたら見て見ぬふりをせず、学校に相談する。  
 子どもを通じて、子どもの友達や友達家族、ご近所の方と関わりを持つ。  
 自治会に入り、人との交流を増やす。  
 学校だけが学びの場ではないことを認識する。

地域

個人や学校の問題とせず、地域の問題としても捉える。  
 自治会や老人会などあらゆる人で子どもの見守り活動を行い、異変を感じたら学校に相談する。  
 不登校の子どもやいじめ被害者を受け入れるオープンハウスや居場所をつくる。

行政

不登校児童に対し、積極的に関わっていく。  
 各学校のいじめ防止策やいじめが発生した時の対処方針などを積極的に公開する。  
 いじめ等の再発防止マニュアルをつくる。  
 フリースクールが広まるよう支援を行う。  
 電話相談だけでなくメール等でも相談を受け付ける。  
 LGBTをはじめとした性教育を充実させる。  
 いじめ被害者が気軽に相談できる場（SOSを発信できる場）を複数設ける。

民間企業、  
NPO等

その他の意見

先生と生徒の意思疎通がうまくいかない場合でも、取り残される子どもを出さないようにするのが大事ではないか。

いじめが起きた時の対処が大切であり、適切な対処が次のいじめの防止にもつながる。

病気により登校できない、教室に行けない児童や生徒への対応も検討してほしい。

1. 学校（行政）・地域・個人が協力する子ども見守り体制の構築

